

# 講義科目4-3

## 臨床薬理学モデル・コア・カリキュラム

### 全体目標

薬物治療を行う際に必要となる医薬品の基礎知識を学び、投薬方法の根拠となる理論、投薬後に現れる効果や副作用を理解する。これらの事項に関わる獣医学領域の特殊性を、特に比較生物学的な立場から理解する。また、産業動物における疾病治療を含めた医薬品の使用方法について理解する。

### (1) 薬物治療の基本姿勢

#### 一般目標：

薬物治療を行う際の基本姿勢と倫理、投薬方法の根拠となる理論、投薬後に現れる効果や副作用、残留について理解する。

#### 到達目標：

- 1) 薬物治療における基本姿勢と倫理を説明できる。
- 2) 投与量、投与間隔、投与経路について動物種と臨床例を考慮して説明できる。
- 3) 薬物動態、有害反応および薬物相互作用について動物種と臨床例を考慮して説明できる。

### (2) 小動物の薬物治療法

#### 一般目標：

小動物（犬および猫）の主な疾患の病態生理を理解するとともに、薬物治療法について、主要な薬剤の特徴、目的に合わせた選び方と使い方、特に治療にともなう副作用と対処法を理解する。

#### 到達目標：

- △1) 神経疾患、運動器疾患、疼痛の薬物治療法を説明できる。
- △2) 消化器疾患の薬物治療法を説明できる。
- △3) 呼吸器疾患の薬物治療法を説明できる。
- △4) 循環器疾患の薬物治療法を説明できる。
- △5) 泌尿・生殖器疾患の薬物治療法を説明できる。
- △6) 炎症・アレルギー・免疫介在性疾患の薬物治療法を説明できる。

- △7) 内分泌・代謝性疾患の薬物治療法を説明できる。
- △8) 感染症の抗菌薬による治療法について Pharmacokinetics/Pharmacodynamics (PK/PD) 理論に基づいて説明できる。
- △9) 悪性腫瘍の薬物治療法を説明できる。
- △10) 皮膚科疾患の薬物治療法を説明できる。
- △11) 眼科疾患の薬物治療法を説明できる。

### (3) 産業動物の薬物治療法

#### 一般目標：

牛、豚、鶏などの産業動物の主な疾患の病態生理を理解するとともに、薬物治療法について、主要な薬剤の特徴、目的に合わせた選び方と使い方、治療にともなう副作用と対処法ならびに休薬期間・残留について理解する。

#### 到達目標：

- △1) 消化器疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △2) 代謝性疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △3) 内分泌疾患・繁殖障害治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △4) 運動器疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △5) 呼吸器疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △6) その他の代表的な反芻獣疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。

## (4) 馬の薬物治療法

### 一般目標：

馬の主な疾患の病態生理を理解するとともに、薬物治療法について、主要な薬剤の特徴、目的に合わせた選び方と使い方、治療にともなう副作用と対処法を理解する。

### 到達目標：

- △1) 呼吸器疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △2) 消化器疾患治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △3) 運動器疾患およびその他の疾患の治療薬を列挙し、作用機序、臨床応用を説明できる。
- △4) 競走馬におけるドーピングと禁止薬剤について説明できる。